



彩湖自然学習センター



自然観察ハンドブック

彩湖の



いきものたち



自然観察ハンドブック

彩湖の



いきものたち

彩湖自然学習センター



# 彩湖のいきものたち について

彩湖は、荒川の河川敷に洪水調整と水道用水の確保を目的として造られた人工湖です。

彩湖の周りは自然が保全されており、さまざまないきものがすんでいます。この本では、彩湖での自然観察に役立つ植物129種、鳥63種、昆虫66種を掲載しました。



## 〈目次〉

観察ポイント	1
🌿 植物	2～35
🐦 鳥	36～57
🦋 昆虫	58～73
索引	74～77
荒川第一調節池と彩湖	78～79
戸田ヶ原自然再生事業	79
彩湖自然学習センター利用案内	80

## 〈観察ポイント〉

彩湖周辺には、河川敷に生える草木だけでなく、荒川の流れた跡の池、河川の工事に協力して移った人々の住居にあった屋敷林、広大な公園の草木など多様な自然環境があります。

彩湖自然学習センターでは、自然観察に役立つ情報の発信を行っています。また、自然体験学習に役立てるために彩湖の自然環境をコンパクトに再現した観察フィールドがあります。

## 観察マップ



## 彩湖自然学習センターと観察フィールド



# 植物

## マークの見かた

### ●花の見られる時期

●生育地 湿地……日当たりの良い湿地

野原……木道より離れた草地

道ばた……道のはし

荒地……道に出る際の空き地

池・沼……池や沼、水辺など

林縁……林の陰で日陰のところ

### ●帰化植物の原産地

#### 【帰化植物とは】

外国の植物が日本に運ばれ野生化した植物を言う。

- ・大部分は江戸時代以降のものが多い。
- ・交通の激しい都会地にも数多く繁殖している。
- ・戸田市、彩湖とその周辺地域もその例にもれず相当数の帰化植物が認められる。

### ●生活のしかた

#### 【一年草とは】

種子から発芽、生長し開花、結実して枯れるという

一生を一年未満で終える植物のこと。

主に春に発芽して冬までに枯れる植物を指す。

#### 【多年草とは】

冬に地上部は枯れるが、地下部は生存して春になると芽を出して生育し、これを2年以上繰り返し、生き続ける草のこと。

#### 【越年草とは】

秋に発芽、生長し翌年開花・結実したのち夏までに枯れる植物のこと。二年草と同意。

絶 絶滅危惧種

準 準絶滅危惧種

#### ■用語の説明

花序……枝の上での花の並び方

花穂……穂のような形に咲く花

りん茎……植物の地中にある茎が変態したもので多肉になった葉が重なるようにしているもの

花弁……花びらのこと

花柄……花の茎のこと

舌状花……上部が舌のように

なっているもの

筒状花……花弁が筒状になって

いるもの

筒状花 舌状花





## ツククサ (ツククサ科)

- 8~10月 ● 道ばた
- 一年草

2枚の緑色の苞葉に挟まれるようにして青色の花を咲かせる。



## マメゲンバイナズナ (アブラナ科)

- 5~7月 ● 荒地
- 北アメリカ ● 越年草

果実が軍配型である。帰化植物。



## ショカツサイ (アブラナ科)

- 3~5月 ● 野原
- 中国 ● 越年草

紅紫色の大きな十字状の花を咲かせる。帰化植物。



## タネツケバナ (アブラナ科)

- 3~5月 ● 湿地
- 多年草

白色で十字状の花を咲かせる。



## ヘビイチゴ (バラ科)

- 8~10月 ● 野原・道ばた
- 多年草

名はヘビが食べるイチゴの意。淡紅色の果実は無毒。



## ナズナ (アブラナ科)

- 3~5月 ● 道ばた
- 越年草

春の七草のひとつ。果実の形を三味線のパチに例えてぺんぺん草とも言う。



## セイヨウアブラナ (アブラナ科)

- 3~5月 ● 道ばた
- 一年草

葉が厚くて粉白色を帯びているのが特徴。葉の基部は茎を抱いている。



**ハコベ(ミドリハコベ)**  
(ナデシコ科)

- 3~9月 ● 道ばた
- 越年草

白色の小さな花を開く。全体にやわらかく無毛。花弁は5枚で2深裂する。



**オランダミミナグサ**  
(ナデシコ科)

- 4~5月 ● 道ばた
- ヨーロッパ ● 越年草

毛が密生する茎の先に白色の花を密に開く。帰化植物。



**クズ** (マメ科)

- 7~9月 ● 野原・荒地
- 多年草

つる状の草本。根から葛粉がとれる。花は紅紫色で甘い香りがする。



**メドハギ** (マメ科)

- 8~10月 ● 野原
- 多年草

花は淡黄色。紅紫色の斑点がある。昔、茎を占いのめどぎに用いた。



**シロツメクサ** (マメ科)

- 4~7月 ● 道ばた・荒地
- ヨーロッパ ● 多年草

この名は、箱詰めする際の詰物として利用したことによる。帰化植物。



**ムラサキツメクサ(アカツメクサ)**  
(マメ科)

- 5~9月 ● 道ばた・荒地
- ヨーロッパ ● 多年草

茎上部のわきから短い花穂を出し紅紫色の蝶形の花を密に球形につける。帰化植物。



**クサネム** (マメ科)

- 8~10月 ● 湿地
- 一年草

葉がネムノキに似る。葉の脇から淡黄色の小さな蝶形の花を開く。



**アレチヌスビトハギ** (マメ科)

- 7~9月 ● 草地・道ばた
- 一年草

葉の脇から紅紫色の蝶形の花をつける。果実を盗人の忍び足の形に見立てたと言う。



## ツルマメ (マメ科)

- 8~9月 ● 野原・道ばた
- 一年草

大豆の原種と言われている。葉の脇に紅紫色で蝶形の花を開く。つる性。



## ヤブツルアズキ (マメ科)

- 8~9月 ● 野原
- 一年草

小豆の原種と言われている。花は黄色で中央の花弁がねじれている。つる性。



## スズメノエンドウ (マメ科)

- 4~5月 ● 野原・道ばた
- 越年草

花は白紫色。豆果に2個の種子が入っている。



## クサフジ (マメ科)

- 5~9月 ● 草地
- 多年草

青紫色の蝶形の花を多数つける。藤の草本版。



## ツボスミレ (スミレ科)

- 4~5月 ● 湿地
- 多年草

ツボは坪(庭)の意味という。花は白色。花弁の紫色の筋が目立つ。



## コメツブツメクサ (マメ科)

- 4~7月 ● 道ばた・草地
- 一年草

黄色の蝶形の花が集まって咲く。花が米粒に似ることで名づけられた。



## ヤブマメ (マメ科)

- 8~9月 ● 草地
- 一年草

淡紫色の蝶形の花をつける。



## カラスノエンドウ (マメ科)

- 4~5月 ● 野原
- 越年草

花は紅紫色。豆果が黒く熟すのをカラスに例えたもの。



### ヒルガオ (ヒルガオ科)

- 6~8月 ● 野原・道ばた
- 多年草

夏の日盛りひさかに花を咲かせるので、アサガオさに対しこの名がある。つるは左巻き。



### ヒシ (ヒシ科) 準

- 7~10月 ● 池・沼・水中
- 一年草

さいたまけんしんぜんぜつめつきくしゅ  
埼玉県準絶滅危惧種。葉の形から「菱形」という語ができた。花は白色。果実みづかはかたく両側に鋭い刺とげがある。



### オオフサモ (アリノトウダイゴサ科)

- 5~9月 ● 池・沼・水中
- 多年草

とくていがいらいせいぶつ  
特定外来生物。水生植物。雌株めだけが帰化している。不定根ふいていこんを出して再生する。



### カラスウリ (ウリ科)

- 8~9月 ● 林のふち
- 多年草

つる草で、秋に赤く熟した実をつり下げる。夏の夜、レース飾りがついた花をつける。



### アカバナユウゲショウ (ユウゲショウ) (アカバナ科)

- 5~9月 ● 野原・湿地
- 北アメリカ ● 多年草

葉の付け根つに紅紫色の花をつける。花弁は丸く夕暮れごうしやくに開花する。帰化植物。

### ヒルザキツキミノウ (アカバナ科)

- 5~9月 ● 道ばた ● 多年草

ほふくする地下茎を持つ多年草。葉のつけ根の紅紫色の花は日の出ごろに白花は夕暮れごうしやくに咲く。



### オオイヌノフグリ (オオバコ科)

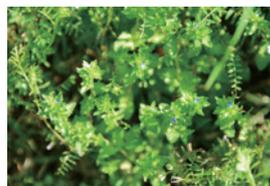
- 3~5月 ● 道ばた
- ヨーロッパ ● 越年草

葉の脇わきに1個ずつ、るり色の花をつける。帰化植物。

### タチイヌノフグリ (オオバコ科)

- 4~6月 ● 道ばた
- ヨーロッパ ● 一年草

全体に小さく、茎は直立し、上部の葉の脇わきにるり色の小さな花をつける。帰化植物。



### ピロードモウズイカ (ゴマノハグサ科)

- 6~8月 ● 道ばた・荒地
- ヨーロッパ ● 越年草

葉はピロードのような灰白色の毛がいはくしやくにおおわれている。葉の先に密に多数の花をつける。帰化植物。



### ヤブガラシ (ブドウ科)

- 6~8月 ● 野原
- 多年草

やぶをからして盛んに繁茂することからこの名がつけられた。別名ピンボウカスラ。つる性。



### カナムグラ (アサ科)

- 9~10月 ● 荒地
- 一年草

茎が針金状で強く生い茂るので、鉄鞭と呼ばれている。雌雄異株。つる草。



### ノヂシャ (スイカズラ科)

- 4~6月 ● 道ばた
- ヨーロッパ ● 越年草

野に生えるレタス(チシャ)の意味。栽培もされ食用。帰化植物。



### ヘラオオバコ (オオバコ科)

- 4~6月 ● 道ばた
- ヨーロッパ ● 多年草

葉はへら形。花の外に長く飛び出したおしべが下から順に咲きあがる姿は愛嬌がある。帰化植物。



### セイトカアワダチソウ (キク科)

- 9~10月 ● 荒地
- 北アメリカ ● 多年草

土手などに大群落をつくる。秋、円錐状の花序をつけ、黄色の頭花を多数開く。帰化植物。



### ノブドウ (ブドウ科)

- 7~8月 ● 野原
- 多年草

果実は白、紫、青色に変わるが食べられない。つる性。



### ヤエムグラ (アカネ科)

- 5~7月 ● 野原・空き地
- 越年草

幾重にも重なりあって幾重にも重なりあって八重葎と呼ばれる。



### ヘクソカズラ (アカネ科)

- 8~9月 ● 野原
- 多年草

葉や茎をもむと悪臭がするので屁くそ蔓と呼ばれている。つる草。



### アメリカセンダングサ (キク科)

- 9~10月 ● 道ばた・空き地
- 北アメリカ ● 一年草

黄色の頭花を囲むところが葉状で四方に開く。そう果はくさび形。2個の刺がある。帰化植物。



### ヨモギ (キク科)

- 9~10月 ● 野原
- 多年草

若葉を草餅の材料とする。葉の裏面の綿毛からお灸のもぐさをつくる。



### カントウヨメナ (キク科)

- 7~10月 ● 道ばた
- 多年草

茎の上部を分け、先端に淡紫色の花を1個つける。関東地方以北に分布する。



### コセンダングサ (キク科)

- 9~11月 ● 道ばた・空き地
- 熱帯アメリカ ● 一年草

頭花は筒状花ばかり。そう果は3~4個あり衣服につきやすい。帰化植物。



### ヒメジョオン (キク科)

- 6~9月 ● 野原
- 北アメリカ ● 越年草

葉が茎を抱かないことからハルジオンと区別できる。帰化植物。



### オオアレチノギク (キク科)

- 5~10月 ● 荒地
- 南アメリカ ● 越年草

茎の上部に白っぽい緑色をした頭花を円錐状につける。頭花に舌状花がない。帰化植物。



### ハルシャギク (キク科)

- 6~8月 ● 道ばた
- 一年草

舌状花は黄色で中心部は紫褐色をしている。ロゼットで冬越しする。



### ハルジオン (キク科)

- 4~5月 ● 野原
- 北アメリカ ● 越年草

葉の基部は茎を抱く。頭花はつぼみの時は下向きで、開花すると上を向く。帰化植物。



### クウゾリナ (キク科)

- 4~6月 ● 野原
- 越年草

茎に淡褐色または赤褐色の毛がある。舌状花だけからなる黄色の頭花をつける。



### オオジンバリ (キク科)

- 4~5月 ● 野原
- 多年草

茎の先端に黄色の舌状花の頭花をつける。ジンバリより葉が大きく立ち、花も大きい。



### セイヨウタンポポ (キク科)

- 4~10月 ● 道ばた・野原
- ヨーロッパ ● 多年草

頭花がやや大きく、総苞の外側がそり返る。帰化植物。



### キクイモ (キク科)

- 8~10月 ● 野原・荒地
- 北アメリカ ● 多年草

根茎の先はイモとなり食用。花がキクのように地下茎が肥大し塊茎となるのでこの名がついた。帰化植物。



### ヒナタイノコズチ (ヒユ科)

- 7~10月 ● 荒地・道ばた
- 多年草

茎は太く、紫褐色を帯び毛が多くがっちりしている。



### オノゲシ (キク科)

- 4~7月 ● 荒地・道ばた
- ヨーロッパ ● 越年草

ハルノゲシより葉は厚く光沢があり、羽状に切れ込む。さわると痛い。帰化植物。



### ハルノゲシ (キク科)

- 4~7月 ● 道ばた
- 越年草

葉は中空で基部は茎を抱く。頭花は黄色。たくさんの舌状花を作る。



### アキノゲシ (キク科)

- 8~10月 ● 野原
- 越年草

頭花に淡黄色の舌状花がある。葉の基部はハルノゲシと違い茎を抱かない。



モジズリ(ネジバナ) (ラン科)

- 4~9月 ● 野原
- 多年草

茎を1本出し、らせん状にねじられた花序に桃紅色の小花を多数つける。



ミソハギ (ミソハギ科)

- 7~9月 ● 湿地
- 多年草

仏前に備える花として親しまれている。旧暦のお盆のころ咲くので盆花ともいう。



メマツヨイグサ (アカバナ科)

- 7~9月 ● 荒地・道ばた
- 北アメリカ ● 越年草

花は小さく花弁4枚あり夜咲くが日中でも残る。帰化植物。



オオマツヨイグサ (アカバナ科)

- 7~9月 ● 荒地
- ヨーロッパ ● 多年草

野生化し一般に月見草、宵待草と呼ばれ親しまれ夕暮れに開花する。花弁は黄色でしばむと赤橙色となる。帰化植物。



イヌヌマトラノオ (サクラソウ科)

- 7~8月 ● 湿地
- 多年草

地下茎を伸ばして繁殖する。花は傾いた花序の上側につく。



サクラソウ (サクラソウ科) 準

- 4~5月 ● 草地
- 多年草

長い花茎を直立し、5つに深く裂けた紅紫色の花を数個つける。戸田市の花に指定されている。



ハンゲショウ (ドクダミ科)

- 6~7月 ● 湿地
- 多年草

半夏生の頃に白い葉をつけることから、また葉の半面が白いので半分化粧の意から名づけられた。



ドクダミ (ドクダミ科)

- 6~8月 ● 湿地・道ばた
- 多年草

特有な臭気がある。白い花弁のような4枚の総苞片の上に花を穂状につける。



## カタバミ (カタバミ科)

- 3~11月 ● 道ばた
- 多年草

茎は地をはい多く分岐する。小葉は昼間開き夜は閉じる。



## アメリカフウロ (フロンソウ科)

- 4~7月 ● 道ばた
- 北アメリカ ● 一年草

葉は切れ込みが深い。花は淡紅白色で小さい。帰化植物。



## ヤブジラミ (セリ科)

- 5~7月 ● 野原・道ばた
- 越年草

果実の熟す頃にやぶに入ると果実が体につくのでシラミに例えたことからこの名がついた。



## オッチカカタバミ (カタバミ科)

- 4~11月 ● 道ばた・空き地
- 北アメリカ ● 多年草

茎は直立し太く、細毛が多い。長い花柄の先に黄色の花弁をつける。帰化植物。



## チョウジソウ

(キョウチクトウ科) 準

- 4~6月 ● 湿地
- 多年草

茎の頂に青紫色の花をつける。丁字草は花の形が丁字に似た草の意。



## タコノアシ (タコノアシ科) 準

- 6~7月 ● 湿地・水辺
- 多年草

花や実がびっしり並んだ花枝を吸盤のついたタコの足に見立ててこの名がつけられた。



## セリ (セリ科)

- 7~8月 ● 湿地
- 多年草

春の七草のひとつで若い芽は食用にする。新苗が競り合ってたくさん出る様子から、この名がついたという。



## ウマノズクサ (ウマノズクサ科)

- 6~8月 ● 野原
- 多年草

臭気がある。果実の様子が馬の首にける鈴に似ていることからこの名がついた。つる性。



ハナニラ (ネギ亜科)

● 3~5月 ● 道ばた  
● 北アメリカ ● 多年草

全体にニラの<sup>かお</sup>の香りがあり、葉もニラに似ているのでこの名がついた。帰化植物。



ヤブカンゾウ (キスゲ亜科)

● 7~8月 ● 野原  
● 多年草

花<sup>か</sup>茎<sup>けい</sup>を出し、上部に黄赤色で<sup>や</sup>重<sup>かさ</sup>咲の花を数個<sup>ご</sup>つける。若<sup>わ</sup>葉<sup>かば</sup>は食用。



ノビル (ネギ亜科)

● 6~7月 ● 野原  
● 多年草

全体にネギの<sup>かお</sup>の香りがある。球根は生のまま味噌<sup>みそ</sup>をつけて食<sup>くら</sup>べるとおいしい。



サクラタデ (タデ科)

● 8~10月 ● 水辺・湿地  
● 多年草

雌雄<sup>しゆういしゆう</sup>異<sup>い</sup>株<sup>しゆく</sup>。花の色が淡<sup>たん</sup>紅<sup>こう</sup>色<sup>しよく</sup>で桜<sup>さくら</sup>の様である。



ダキバアレチハナガサ (クマツヅラ科)

● 7~9月 ● 荒地  
● 南アメリカ ● 多年草

ヤナギハナガサに似るが花序は円柱形で紅紫色の花が先に向かって咲く。帰化植物。



スイセン (ヒガンバナ科)

● 11~4月 ● 野原  
● 多年草

葉は線形。平たい葉の間から花茎を出し、芳香のある白花を数個つける。



ヤナギハナガサ (クマツヅラ科)

● 7~9月 ● 荒地  
● 南アメリカ ● 多年草

茎は直立し四角形で中空。花は枝先に花序を作り、紅紫色の多数の花が散らばって咲く。帰化植物。



ヒガンバナ (ヒガンバナ科)

● 9月 ● 道ばた  
● 多年草

りん<sup>けい</sup>茎<sup>か</sup>から花<sup>けい</sup>茎<sup>けい</sup>を出し赤色の花を輪状につける。彼岸の頃花が咲くのでこの名がついた。



## イタドリ (タデ科)

- 7~10月 ● 野原・荒地  
● 多年草

地下茎により新苗を出す。雌雄異株。若い茎は酸味があり食べられる。



## ギシギシ (タデ科)

- 6~8月 ● 野原・道ばた  
● 多年草

根を薬用とし、「シノネ」という。茎上部に淡緑色の花を輪生状につける。



## アレチギシギシ (タデ科)

- 6~7月 ● 道ばた・荒地  
● ヨーロッパ ● 多年草

花は枝先や茎の先の節に多数輪生し、まばらな花序をつける。帰化植物。



## ミズヒキ (タデ科)

- 7~8月 ● 野原  
● 多年草

細い花穂を上から見ると赤く、下からは白く見えることから紅白の水引にたとえた名である。



## スイバ (タデ科)

- 5~7月 ● 野原・道ばた  
● 多年草

雌雄異株。茎の先端に、小さな花を輪生した花穂をつける。酸っぱい葉という意味により名がついた。



## ヒメスイバ (タデ科)

- 5~8月 ● 野原・道ばた  
● 多年草

花穂は長く短い柄のある小さな花をまばらに輪生する。雌雄異株。



## イヌタデ (タデ科)

- 4~10月 ● 野原・道ばた  
● 一年草

葉に辛みがなく役立つことから犬蓼の名がついた。ままたごとで赤飯として使い、赤まんまの別名もある。



## キキョウソウ (キキョウ科)

- 5~8月 ● 野原  
● 北アメリカ ● 一年草

花は鮮紫色で葉のつけ根に咲く。帰化植物。



## ニワゼキショウ (アヤメ科)

- 5~6月 ● 道ばた
- 北アメリカ ● 多年草

紫色や白色の小さな花を次々に咲かせる。帰化植物。



## ショウブ (ショウブ科)

- 5~7月 ● 湿地
- 多年草

群生して生える。全体に良い香りがあり、5月の節句に飾ったり菖蒲湯に使われるのでなじみ深い。



## アゼナルコ (カヤツリグサ科)

- 5~6月 ● 湿地
- 多年草

垂れ下がる小穂が鳴子のように並んでいるのでこの名がついた。スゲの仲間。



## ヒメガマ (ガマ科)

- 6~7月 ● 池・沼・水辺
- 多年草

上部の雄花穂と雌花穂の間が離れて軸が裸出しているのが特徴。



## スイレン (スイレン科)

- 7~8月 ● 池・沼・水辺
- 多年草

花は夏、径5cmくらいの白い花が開き、夜間は閉じ2~3日開閉を繰り返す。水草。



## キショウブ (アヤメ科)

- 5~6月 ● 湿地
- ヨーロッパ ● 多年草

花が黄色であることから黄菖蒲と名づけられた。半野生化している。帰化植物。



## スギナ (トクサ科)

- 3~6月 ● 野原・道ばた
- 多年草

地上茎には栄養茎(若葉)と胞子茎(ツクシ)の2つの型がある。スギナの若葉とともに食べられる。



## ガマ (ガマ科)

- 6~7月 ● 池・沼・水辺
- 多年草

雄花穂は上部にあって黄色、雌花穂はそれに密接して緑褐色。



### カサスゲ (カヤツリグサ科)

- 5~7月 ● 湿地
- 多年草

菅笠や蓑などを作るために栽培したので笠菅と名づけられた。スゲの仲間。



### ミコシガヤ (カヤツリグサ科)

- 5~6月 ● 草地・湿地
- 多年草

花序の形を祭礼の時の神輿に見立ててこの名がつけられた。スゲの仲間。



### トダスゲ (カヤツリグサ科) (絶)

- 4~6月 ● 湿地
- 多年草

小穂は二股に分かれ直立する。牧野富太郎博士が大正5年に「戸田ヶ原」で発見、命名した。



### ヤワラスゲ (カヤツリグサ科)

- 5~6月 ● 湿地
- 多年草

上に伸びた小穂は雄性で淡色。脇に2~3個の緑色の小穂がつく。スゲの仲間。



### ヤガミスゲ (カヤツリグサ科)

- 5~6月 ● 湿地
- 多年草

小穂は卵球形で成熟すると金平糖のように見える。スゲの仲間。



### マツカサススキ (カヤツリグサ科)

- 8~9月 ● 湿地
- 多年草

茎は高さ1~1.5mあって直立。太くて硬くやや丸い。小穂集団を松かさに見立ててこの名がつけられた。



### フトイ (カヤツリグサ科)

- 6~10月 ● 池・沼・水辺
- 多年草

節から径1~2cmの太くて丸い茎を立て、高さ80~200cmになる。



### ウマミスゲ (カヤツリグサ科)

- 4~6月 ● 湿地
- 多年草

小穂の下部は雌性でまばらにつく。草丈が大型のところから命名された。スゲの仲間。



### イヌムギ (イネ科)

- 4~5月 ● 道ばた
- 南アメリカ ● 多年草

麦に似ているが役に立たないことから名づけられた。小穂は6~10個の小花からなる。帰化植物。



### ヌカキビ (イネ科)

- 7~9月 ● 野原
- 一年草

細かい多数の小穂を糠に例えて名づけられた。



### カラスムギ (イネ科)

- 5~7月 ● 野原・荒地
- ヨーロッパ ● 越年草

小穂は緑色でふつう3個つく。食用にならずカラスが食べる麦からこの名がついた。帰化植物。



### ホソイ (イグサ科)

- 6~8月 ● 湿地
- 多年草

高さ30~50cm。さく果は黄褐色でまばらにつくのでイ(イグサ)と区別できる。



### ヨシ (イネ科)

- 9~10月 ● 湿地
- 多年草

高さ2~3mとなり地下茎は泥中を這い大群落を作る。アシは悪しに通るのでヨシ(良し)になったという。



### オギ (イネ科)

- 9~10月 ● 野原・湿地
- 多年草

茎は高さ2mくらいになる。秋、茎の頂に穂状の白い花序を出す。ススキのように株を作らない。



### セイバンモロコシ (イネ科)

- 7~9月 ● 荒地・道ばた
- 地中海沿岸 ● 多年草

この名は、台湾に多いモロコシの意味である。若い葉は青酸を含み、時に家畜が中毒を起こすことがある。帰化植物。



### コバンソウ (イネ科)

- 5~7月 ● 道ばた・空き地
- ヨーロッパ ● 一年草

鑑賞用に栽培されドライフラワーとして用いられていた。小穂の形が小判に似ている。



## マコモ (イネ科)

- 8~9月 ● 池・沼・湿地
- 多年草

葉で敷物しきものを作ったことからこの名がつけられた。根茎こんけいは太く横に這って群生する。



## ススキ (イネ科)

- 9~10月 ● 野原
- 多年草

大きな株かぶを作って群生ぐんせいする。カヤ(茅)ともいわれ、屋根をふくことに使われる。



## チガヤ (イネ科)

- 5~6月 ● 野原
- 多年草

風にそよぐ白い毛みっせいを密生みつせいした花穂かすいは美しい。若い花序かじよをツバナと呼び、かむとかすかに甘い。



## エノコログサ (イネ科)

- 7~10月 ● 道ばた・空き地
- 一年草

花穂かすいで猫ねこをじゃらすのでネコジャラシとも呼ぶ。花穂かすいを子犬の尾に見立てた「犬の子草」の意。



## ヒメジソ (シソ科)

- 9~10月 ● 湿地
- 一年草

茎くきは四角形でシソを小さくした姿すがた。葉うすは薄く荒い鋸歯あらきょしがある。



## ニガクサ (シソ科)

- 7~9月 ● 湿地
- 多年草

夏ごうしに紅紫色しよくの小さな唇形しんけいの花をつける。虫こぶむごぶを作ることがある。



## シロネ (シソ科)

- 8~10月 ● 湿地・水辺
- 多年草

地下茎けいが太くて白いのでこの名がつけられた。脇わきに白色で小さな唇形しんけいの花をつける。1mほどの高さ。



## ハッカ (シソ科)

- 8~10月 ● 道ばた
- 多年草

葉わきの脇わきに淡紫色たんしよくの小さな唇形しんけいの花をつける。葉をもむとメントールの香かおりがする。



ミゾコウシュ (シソ科) 準

- 5~7月 ● 湿地  
● 越年草

茎は四角で枝先の花穂に多数の淡紫色の唇形の花をつける。



ヒメオドリコソウ (シソ科)

- 3~6月 ● 道ばた  
● ヨーロッパ ● 越年草

花の形が笠をかぶった小さな踊り子の姿を思わせることからこの名がついた。帰化植物。



ホトケノザ (シソ科)

- 3~5月 ● 道ばた  
● ヨーロッパ・北アメリカ ● 越年草

対生する葉のつけ根から仏像のような紅紫色の唇形の花が咲くのでこの名がつけられた。帰化植物。



キツネノマゴ (キツネノマゴ科)

- 8~10月 ● 野原・道ばた  
● 一年草

茎と葉に毛がある。枝の先に、淡紅紫色の唇形の花をつける。



カキトアシ (シソ科)

- 4~5月 ● 野原・道ばた  
● 多年草

花が終わるころには倒れて地表を這う。垣根を通り越してつるが伸びることからこの名がつけられた。



メハジキ (シソ科)

- 8~9月 ● 道ばた・荒地  
● 越年草

子供がこの茎を臍に貼って目を開かせて遊んだことからこの名がつけられた。



ガガイモ (ガガイモ科)

- 8~9月 ● 野原  
● 多年草

地下茎で繁殖茎はつる状で切ると白汁が出る。種子は絹糸状の毛がある。



アメリカヌハウズキ (ナス科)

- 8~10月 ● 道ばた  
● 北アメリカ ● 一年草

花は2~4個が枝先につき淡紫色。果実は黒い球形でつやがある。帰化植物。

# 鳥

## マークの見かた

### ●鳥が見られる時期

留鳥 …… 季節で移動せず、一年中見られる鳥。

夏鳥 …… 春～夏に見られる鳥。春に南の国から渡ってきて繁殖し、秋に帰っていく。

冬鳥 …… 秋～冬に見られる鳥。秋にシベリアなどから渡ってきて越冬し、春に帰っていく。

漂鳥 …… 日本国内を季節によって移動する鳥。

●全長 …… 鳥を仰向けに寝かせて測った、尾羽の先からくちばしの先までの長さ(センチメートル)。

### ●生育環境

### ●主に食べているもの

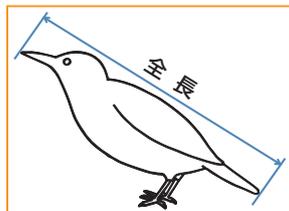
### ■用語の説明

さえずり …… 繁殖期に雄が雌に求愛するときや、なわ

ばり宣言をするときに出す鳴き声。

地鳴き …… さえずり以外の鳴き声。雌雄ともに出す。

繁殖期 …… 子育て期間。おもに4～8月。



停空飛行 …… 空中の一カ所にとどまる飛び方。ホバリング。

波状飛行 …… 波打つように上下して飛ぶ飛び方。

滑空 …… はばたかず、翼を広げたまま飛ぶこと。

♂ 雄 ♀ 雌

ものさし鳥 …… スズメ、ムクドリ、ハト、カラスは大きさの基準となる鳥で、これらの鳥を「ものさし鳥」という。自分が見た鳥を見わける時、ものさし鳥より大きい小さいかを目安にする。

スズメ 全長約14cm

ムクドリ 全長約24cm

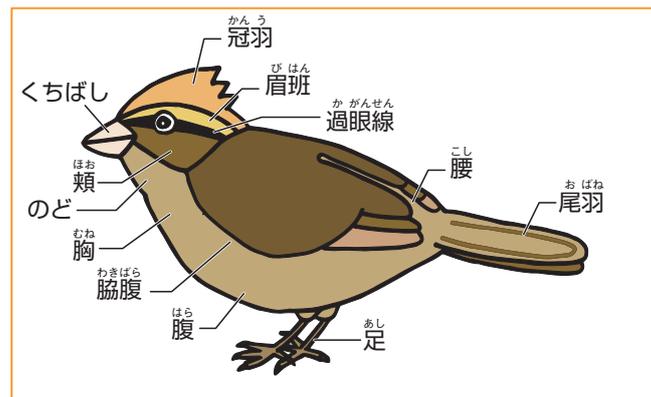
キジバト 全長約33cm

ハシブトガラス 全長約57cm

緑色でスズメより小さく見えたら私かも



### ■鳥の体の各部のよびかた





### カイツブリ (カイツブリ科)

- 留 ● 26
- 魚、エビ、水生昆虫
- 湖沼、川、公園の池

小さな水鳥で、頬から首にかけて赤茶色。潜水して魚などをとる。雌雄同色。



### カンムリカイツブリ (カイツブリ科)

- 冬 ● 56 ● 魚、エビ、水生昆虫
- 湖沼、川、湾、海岸

彩湖の代表的な冬鳥。黒い頭と冠羽が特徴。潜水して魚などをとる。5月頃夏羽を見ることが出来る。



### ゴイサギ (サギ科)

- 留 ● 57
- 魚、カエル、エビ、昆虫
- 湖沼、川、水田

赤い目と首を縮めた姿が特徴。日中は木の陰などで休み、夕方から活動し始める。夜鳥とも呼ばれる。



### アオサギ (サギ科)

- 留 ● 93
- 魚、カエル、トカゲ
- 湖沼、川、水田、干潟

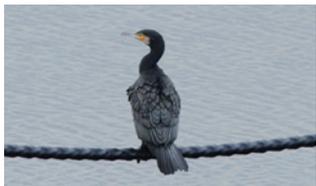
灰色のサギ。サギ類の中では最大。彩湖の中の島で営巢している。



### ハジロカイツブリ (カイツブリ科)

- 冬 ● 30
- 魚、エビ、水生昆虫
- 湖沼、湾

カイツブリよりやや大きく、首が長い。潜水して魚などをとる。目が赤い。雌雄同色。



### カワウ (ウ科)

- 留 ● 81
- 魚
- 湖沼、川、湾

集団でねぐらと採餌場を移動する。彩湖のウキの上で羽を乾かす姿が見られる。潜水して魚をとる。



### ダイサギ (サギ科)

- 夏/冬 ● 90
- 魚、カエル
- 湖沼、川、水田、干潟

大型の白サギ。くちばしが夏は黒く、冬は黄色になる。



### コサギ (サギ科)

- 留 ● 61
- 魚、カエル、エビ、昆虫
- 湖沼、川、水田、干潟

カラス大のサギで、黒いくちばしと黄色い足の指が特徴。夏羽には2本の長い冠羽がある。



### オカヨシガモ (カモ科)

- 冬 ● 50
- 植物の種子、水草、昆虫
- 湖沼、川、海岸

雌雄とも茶色っぽい。雌はくちばしがオレンジ色。水中で逆立ちして水草を食べる。



### ヒドリガモ (カモ科)

- 冬 ● 49
- 水草、海藻、植物の種子
- 湖沼、川、海岸、公園の池

雄は茶色い顔とクリーム色の頭が特徴。植物食で、水草や藻、海藻などを食べる。



### ヨシガモ (カモ科)

- 冬 ● 48
- 植物の種子、水草、昆虫
- 湖沼、川、海岸、公園の池

雄は光沢のある緑色の顔と後頭部まで伸びる冠羽が特徴。



### マガモ (カモ科)

- 冬 ● 59
- 植物の種子、水草、昆虫
- 湖沼、川、海岸、公園の池

雄は黄色いくちばしと光沢のある緑色の顔が特徴。雌は茶色。



### カルガモ (カモ科)

- 留 ● 61
- 植物の種子、水草、昆虫
- 湖沼、川、海岸、公園の池

くちばしの先が黄色い。雌雄ともほぼ同色。彩湖でも一年中見られる。

### ハシビロガモ (カモ科)

- 冬 ● 50
- 植物の種子、水草、水生昆虫、植物プランクトン
- 湖沼、川、海岸、公園の池

平べったいくちばしが特徴。くちばしにあるブラシ状のもので、水中のプランクトンをこしとって食べる。



### オナガガモ (カモ科)

- 冬 ● ♂75 ♀53
- 植物の種子、水草、昆虫
- 湖沼、川、海岸、公園の池

雄は長い尾羽、白い胸と首が特徴。逆立ちして水底の植物の種子や水草などをとる。



### コガモ (カモ科)

- 冬 ● 38
  - 植物の種子、水草、昆虫
  - 湖沼、川、公園の池
- こがた おす  
小型のカモ。雄は茶色い顔に目の周りが緑色。雌は茶色。

### ホシハジロ (カモ科)

- 冬 ● 45
  - 植物の種子、水草、昆虫、エビ、貝
  - 湖沼、川、海岸、公園の池
- おす  
雄は赤茶色の顔と赤い目が特徴。潜水が上手く、貝や水草などをとる。



### キンクロハジロ (カモ科)

- 冬 ● 40
- 貝、魚、昆虫、エビ、植物の種子、水草
- 湖沼、川、海岸、公園の池

黒い顔に黄色い目、後頭部の冠羽が特徴。潜水が上手く、貝や水生昆虫、水草などをとる。



### トビ (タカ科)

- 留 ● 60
  - 昆虫、カエル、ミミズ、死んだ魚、動物の死がい
  - 海岸、湖沼、川、山林、市街地
- つばさ  
翼の下面が茶色く、白い斑が見える。尾羽は三味線のバチ型(角尾)。「ピーヒョロロ」と鳴く。

### オオタカ (タカ科)

- 留 ● ♂50 ♀56
  - 鳥、小型ほ乳類
  - 山林、農耕地
- つばさ  
翼の下面が白っぽく、細い縞模様がある。白い眉斑が目立つ。繁殖期には「キッキッキ」と鳴く。



### ノスリ (タカ科)

- 留 ● 55
  - ネズミ、鳥、ヘビ、トカゲ、昆虫
  - 山林、雑木林、農耕地
- つばさ  
翼の下面が白く、黒い斑がある。尾羽の先は丸い(円尾)。ホバリングしながら獲物を探す。



### チョウゲンボウ (ハヤブサ科)

- 留 ● 35
- 小鳥、ネズミ、昆虫
- 農耕地、草原、川原

ハト大でスマートなハヤブサの仲間。ホバリングしながら獲物を探し、急降下して捕らえる。



### バン (クイナ科)

- 留 ● 32
- 水生昆虫、カタツムリ、植物の葉、種子
- 湖沼、湿地、川

額とくちばしが赤く、足は黄緑色。足に水かきはないが、水面を上手に泳ぐ。

### ハヤブサ (ハヤブサ科)

- 留 ● ♂42 ♀49
- 鳥
- 海岸、湖沼、農耕地

目の下へ垂れる黒い紋が特徴。飛んでいるとき翼の先が尖って見える。カラス大の暗灰色の鳥。



### オオバン (クイナ科)

- 留 ● 39
- 水草、水生昆虫、魚
- 湖沼、湿地、川

額とくちばしが白い。足の指にひれがあり、潜水が上手く、水草などをとる。彩湖では冬に見られる。



### キジ (キジ科)

- 留 ● ♂81 ♀58
- 植物の葉、芽、種子、昆虫、クモ
- 山林、雑木林、農耕地

長い尾羽を持つ。地上に住み、あまり飛ばない。繁殖期の雄は「ケーツ、ケーツ」と鳴く。



### イソシギ (シギ科)

- 留 ● 20
- 昆虫、貝
- 海岸、湖沼、川

小型のシギ。川や湖沼に生息し、水際を歩きながら水生昆虫などを食べる。尾羽を上下に振る。

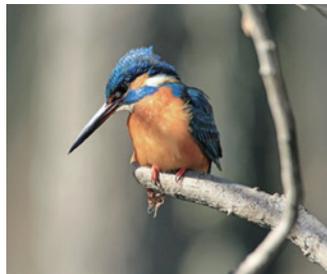


### ユリカモメ (カモメ科)

● 冬 ● 40

- 魚、昆虫
- 港、海岸、湖沼、川

くちばしと足が赤い。小魚やゴカイ類を捕食するが、彩湖の東屋では人の投げるパンなどを食へに寄ってくる。



### カワセミ (カワセミ科)

● 留 ● 17

- 魚、エビ、水生昆虫
- 川、湖沼

光沢のある青い羽が特徴。ダイビングして小魚をとる。雌はくちばしの下面が赤い。

### セグロカモメ (カモメ科)

● 冬 ● 61

- 魚、動物の死がい
- 港、海岸、川

大型のカモメ。漁港から出る魚のあらなどを食べる。顔から胸に薄茶色の羽が混じる。



### コゲラ (キツツキ科)

● 留 ● 15

- 昆虫、果実
- 山林、雑木林、公園

スズメ大の小さなキツツキ。住宅地や公園の樹木でも見られる。「ギーギー」と鳴く。



### キジバト (ハト科)

● 留 ● 33

- 種子、果実
- 雑木林、山林、農耕地

市街地にも多く、一年中見られる。羽のオレンジ色のうろこ模様が特徴。雌雄同色。ものさし鳥。



### アリスイ (キツツキ科)

● 冬 ● 18

- アリ
- 明るい林、農耕地

長い舌でア리를巣から引きずり出して食べる。木の幹ではなく、枝にとまることが多い。



## ツバメ (ツバメ科)

- 夏 ● 17
- 昆虫
- 市街地、農耕地

4月下旬頃から飛び交う姿が見られる。建物の軒先などに巣を作る。雌雄同色。



## タヒバリ (セキレイ科)

- 冬 ● 16
- 昆虫、クモ、種子
- 農耕地、川原、草原

胸の黒い縦班が特徴。開けた場所を好み、群れで行動する。

## ヒバリ (ヒバリ科)

- 留 ● 17
- 昆虫、種子
- 農耕地、草地、川原

空中に舞い上がり、さえずってなわ張り宣言をする。丈の低い草地や農耕地、河川敷にすむ。



## ヒヨドリ (ヒヨドリ科)

- 留 ● 28
- 昆虫、果実、花の蜜
- 市街地、雑木林、山林、農耕地

「ヒーヨーヨー」とよく鳴く、身近な鳥。果物や花の蜜が好物。ムクドリより尾羽が長く、波状飛行する。



## ハクセキレイ (セキレイ科)

- 留 ● 21
- 昆虫、クモ
- 川、海岸、農耕地

開けた環境を好み、長い尾羽を上下に振りながら歩く。「ピピッ」と鳴きながら飛ぶ(波状飛行)。



## モズ (モズ科)

- 留 ● 20
- 昆虫、トカゲ、カエル、ミミズ
- 農耕地、雑木林、林縁

秋に「キョツ、キョツ」と高鳴きをしてなわ張り宣言をする。とった獲物を枝にさす「はやにえ」という行動をとる。



### ジョウビタキ (ヒタキ科)

- 冬 ● 14
- 昆虫、果実
- 雑木林、農耕地、市街地

雌雄とも1羽でなわ張りを持つ。見通しのよい枝先に止まり、「ヒッヒッ」となわ張り宣言をする。



### ツグミ (ヒタキ科)

- 冬 ● 24
- 昆虫、ミミズ、果実
- 山林、雑木林、農耕地、公園

胸のうろこ模様が特徴。冬は単独で行動し、農耕地など開けた場所で生活する。「クエツクエツ」と鳴く。

### シロハラ (ヒタキ科)

- 冬 ● 25
- 昆虫、ミミズ、果実
- 山林、雑木林

薄暗い林の中を好み、土中から昆虫の幼虫やミミズなどをとって食べる。腹が白っぽい。



### ウグイス (ウグイス科)

- 留 ● 14-16
- 昆虫、クモ
- 山林、雑木林、公園

姿は見えませんが、やぶの中から「ジャツ、ジャツ」と地鳴きが聞こえる。春には「ホーホケキョ」と鳴く。



### アカハラ (ヒタキ科)

- 漂 ● 24
- 昆虫、ミミズ、果実
- 山林、雑木林

胸から脇腹までのオレンジ色が特徴。土中から昆虫の幼虫やミミズなどをとって食べる。



### オオヨシキリ (ヨシキリ科)

- 夏 ● 18
- 昆虫、クモ
- アシ原

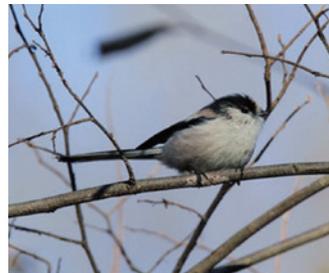
6月頃から「ギョギョシ、ギョギョシ」と大きな声でさえずる。アシ原にすみ、アシの茎を束ねて巣を作る。



## セッカ (セッカ科)

- 留 ● 13
- 昆虫、クモ
- 川原、水田、草原

♂は「ヒツヒツ」と鳴きながら上昇し、下降する時「ジャツジャツ」と鳴く(さえずり飛翔)。



## エナガ (エナガ科)

- 留 ● 14
- 昆虫、クモ
- 山林、雑木林

白い小さな体に長い尾羽が特徴。木の枝から枝へ動き、昆虫や種子を食べる。群れで生活する。

## メジロ (メジロ科)

- 留 ● 12
- 昆虫、クモ、果実、花の蜜
- 雑木林、山林、公園

スズメよりも小さく、目の周りが白い。細長くちばして花の蜜を吸う。



## ホオジロ (ホオジロ科)

- 留 ● 17
- 種子、昆虫
- 草地、農耕地、川原、林縁

センター周辺のアシ原でよく見られる。早春から見晴らしのよい枝先でさえずる。腹は茶色。



## シジュウカラ (シジュウカラ科)

- 留 ● 15
- 昆虫、クモ、種子
- 雑木林、山林、公園、庭木

一年中見られ、「ツツピー、ツツピー」とさえずる声がよく聞こえる。ネクタイのような胸の黒い模様が特徴。



## カシラダカ (ホオジロ科)

- 冬 ● 15
- 種子、昆虫
- 雑木林、農耕地、草地、アシ原

ホオジロに似るが、白い腹と脇腹の茶色い模様、短い尾羽で見わける。地鳴きは「チツ」と鳴く。



## アオジ (ホオジロ科)

- 留／漂 ● 16
- 種子、昆虫
- 山林、雑木林

胸から腹が黄色っぽい。林道  
付近や雑木林の縁など、やや  
薄暗いところを好む。地鳴き  
は「チツ」と鳴く。



## マヒワ (アトリ科)

- 冬／漂 ● 12
- 種子
- 山林、雑木林

主にハンノキの種子を食べる。  
顔と胸が黄色。雄は頭が黒い。

## オオジュリン (ホオジロ科)

- 漂 ● 16
- 昆虫、種子
- 湿原、アシ原

冬に群れでアシ原にすみ、く  
ちばしでアシの茎を割って中  
にいる昆虫を食べる。



## ベニマシコ (アトリ科)

- 漂 ● 15
- 種子、昆虫
- 草地、林縁

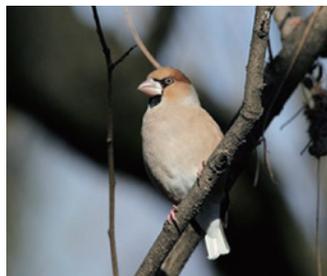
雄はきれいなピンク色。「フィ、  
フィ、フォ」と澄んだ高い声で  
鳴く。



## カワラヒワ (アトリ科)

- 留 ● 14
- 種子、昆虫
- 農耕地、雑木林、公園

高い声で「キリリリ、キリリリ」  
と飛びながら鳴く。翼と尾羽  
に黄色い斑があり、飛ぶと目立  
つ。



## シメ (アトリ科)

- 冬／漂 ● 19
- 果実、昆虫
- 山林、雑木林、公園

太くて短くちばしで、かたい  
木の実を割って食べる。飛翔  
中によく鳴く。



## アトリ (アトリ科)

- 冬 ● 16
- 種子、昆虫
- 山林、雑木林、農耕地

群れで行動し、草木の種子を食べる。胸がオレンジ色。



## ハシボソガラス (カラス科)

- 留 ● 50
- 動物質のもの、種子
- 農耕地、雑木林

雑食性だが、木の実や昆虫類もよく食べる。「ガーガー」と鳴く。開けた環境を好む。

## スズメ (スズメ科)

- 留 ● 14
- 種子、昆虫
- 市街地、農耕地

一年中見られる鳥。彩湖の放送棟に営巣していて、チュンチュン声をする。足を揃えて跳ねるように歩く。ものさし鳥。



## ハシブトガラス (カラス科)

- 留 ● 57
- 動物質のもの、種子
- 市街地、農耕地、雑木林、海岸

太いくちばしが特徴。雑食性でゴミもあさる。「カーカー」と鳴く。ものさし鳥。



## ムクドリ (ムクドリ科)

- 留 ● 24
- 昆虫、ミミズ、果実
- 市街地、農耕地

黄色い足とくちばし、白い腰、短い尾羽が特徴。足を交互に出して歩く。ものさし鳥。



## オナガ (カラス科)

- 留 ● 37
- は虫類、昆虫、果実
- 雑木林、公園

黒い頭と長い尾羽が特徴。群れで行動し、「ゲイゲイ」と濁った声で鳴く。

# 昆虫

どんな昆虫がいるかな？  
探してつかまえてみよう！

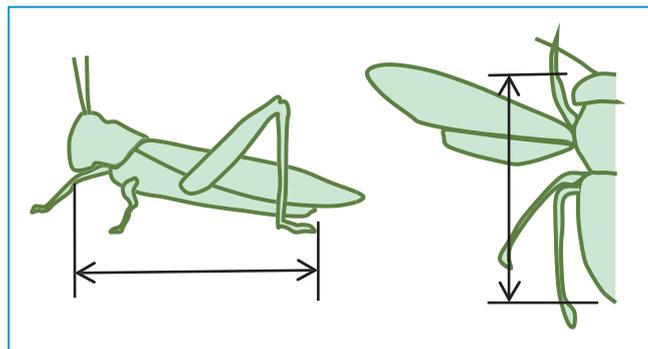
木の葉の上、草むら、花、  
石の下などよく見てみよう。  
昆虫の世界があるよ。

## 昆虫採集に行くときの注意

- ◎**服装**…ぼうし、長そで、長ズボン、歩きやすいくつ
- ◎**立ち入り禁止**の場所や取ってはいけない場所には入らない
- ◎**採集**してきた昆虫を別の場所に逃がさない

## マークの見かた

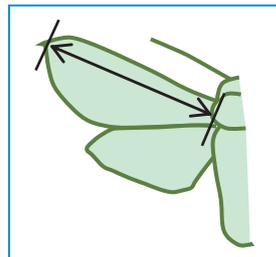
- **成虫**の見られる時期
- **体の大きさ**(ミリメートル)  
トンボ、バッタの仲間、カマキリ、セミ、甲虫、クモは「体長」  
…頭の先たんからはらの先たんまでの長さ。  
触覚、つゝ、産卵管などは体長にふくめない。



チョウ・ガは「前ばねの長さ」  
…前ばねのつけ根から先たん  
までななめに計った長さ。

- **幼虫**の食べ物

♂ オス    ♀ メス





**アオモンイトトンボ**  
(イトトンボ科)  
● 4~10月 ● 約30

センター周辺<sup>しやうへん</sup>のトンボの中で一番最初<sup>さいしょ</sup>に見られる。



**ギンヤンマ** (ヤンマ科)  
● 5~11月 ● 約70

オスの胸<sup>むね</sup>は緑<sup>はら</sup>で腹<sup>はら</sup>は青いきれいなトンボ。



**クビキリギス** (キリギリス科)  
● 10~6月 ● 35~42  
● 雑食性

成虫<sup>せいちゆう</sup>で冬越<sup>ふゆご</sup>しし4月ごろに草は



**エンマコオロギ** (コオロギ科)  
● 8~11月 ● 25~30  
● 雑食性

コロコロリーと鳴く。顔<sup>かほ</sup>がエンマさまに似ている。



**アキアカネ** (トンボ科)  
● 6~12月 ● 約40

羽化<sup>す</sup>後、山<sup>す</sup>で夏<sup>ひしょ</sup>を過ごす。避暑<sup>ひしょ</sup>をするトンボ。



**ショウジョウトンボ** (トンボ科)  
● 5~10月 ● 約50

赤<sup>あか</sup>いけれど赤<sup>あか</sup>トンボの仲間<sup>なかま</sup>ではない。



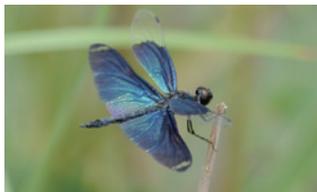
**ツチイナゴ** (バッタ科)  
● ♂50~55 ♀50~70  
● クズなどの葉

幼虫<sup>ようちゆう</sup>は緑色<sup>せいしやう</sup>だが成虫<sup>せいしやう</sup>になると茶色<sup>ちやしやう</sup>になる。



**コバネイナゴ** (バッタ科)  
● 8~11月 ● ♂16~33 ♀18~40  
● イネ科植物<sup>つくだ</sup>など

佃煮<sup>つくだ</sup>にして食べる地方<sup>ところ</sup>がある。



**チョウトンボ** (トンボ科)  
● 6~9月 ● 約35

チョウ<sup>と</sup>のようにひらひら飛ぶ<sup>とぶ</sup>のでこの名前<sup>な</sup>がついた。

他に シオカラトンボ、ナツアカネ、コシアキトンボ、ウスバキトンボなどが見られる。幼虫<sup>ようちゆう</sup>(ヤゴ)も成虫<sup>せいしやう</sup>も他の昆虫<sup>こんちゆう</sup>を食べる。



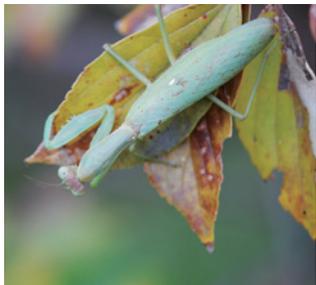
**クルマバッタ** (バッタ科)  
● 7~11月 ● ♂35~45 ♀55~65  
● イネ科植物<sup>つくだ</sup>など

トノサマバッタ<sup>に</sup>に似ているがこちらの方がレア。

キリギリス<sup>な</sup>の仲間<sup>なかま</sup>は触覚<sup>しやうかく</sup>が長く、バッタ<sup>な</sup>の仲間<sup>なかま</sup>の触覚<sup>しやうかく</sup>は短く太い。他にササキリ、ツユムシ、ショウリウバッタ、オンブバッタ、トノサマバッタ、ヒンバッタなど。



**オオカマキリ** (カマキリ科)  
 ● 8~11月 ● 70~95 ● 昆虫  
 日本のカマキリの中で最大。



**ハラビロカマキリ** (カマキリ科)  
 ● 8~10月 ● 45~70 ● 昆虫  
 前ばねの左右に白い点がある。



**ココカマキリ** (カマキリ科)  
 ● 8~10月 ● ♂35~55 ♀45~65  
 ● 昆虫  
 この辺で一番小さいカマキリ。



**ミンミンゼミ** (セミ科)  
 ● 7~9月 ● 33~36  
 はねは透明。



**アブラゼミ** (セミ科)  
 ● 7~9月 ● 36~38  
 セミの中では数少ない色つきのはねをもつ。



**ニイニイゼミ** (セミ科)  
 ● 6~9月 ● 20~24  
 センター周辺(しょうへん)のセミの中で一番早く表れる。



**マメコガネ** (コガネムシ科)  
 ● 5~8月 ● 9~13  
 ● いろいろな植物の葉  
 集団(しゅうだん)でいろいろな植物の葉を食べる。



**カトムシ** (コガネムシ科)  
 ● 6~8月 ● 32~53  
 ● くち木や腐葉土  
 夜、クヌギ(じゆえき)の樹液に来る。道満では少ない。



**カナブン、シロテンハナムグリ**  
 (コガネムシ科)  
 ● 6~8月 ● 22~27 ● くち木  
 昼間(じゆえき)樹液に集まる。シロテンハナムグリは花にも来る。



**ナナホシテントウ** (テントウムシ科)  
 ● 一年中 ● 5~9  
 ● アブラムシ  
 黒丸(こ)が7個あったらナナホシテントウ。



**ナミテントウ** (テントウムシ科)  
 ● 一年中 ● 5~8  
 ● アブラムシ  
 模様(もよう)にバリエーションが多いが全部ナミテントウ。



**キイロテントウ** (テントウムシ科)  
 ● 5月~ ● 4~5  
 ● ウドンコ病(うどんこびょう)などの菌類(きんるい)  
 成虫(せいちゅう)も幼虫(ようちゅう)もウドンコ病(うどんこびょう)菌(きん)などの菌(きん)を食べる。



### ヨツボシケシクスイ

(ケシクスイ科)

● 5~9月 ● 4~14 ● 樹液や他の昆虫

じゅえき  
樹液に集まる。



### モモブトカミキリモドキ

(カミキリモドキ科)

● 4~6月 ● 5~8 ● ススキの枯れた茎

4月ごろにアブラナなどの花の上でよく見られる。



### ジャコウアゲハ (アゲハチョウ科)

● 4~9月 ● 50~60

● ウマノスズクサ

ようちゆう せいちゆう  
幼虫も成虫もウマノスズクサの毒を体にためる。



### キタキチョウ (シロチョウ科)

● 3~11月 ● 20~25

● メドハキなど

せいちゆう ふゆご  
黄色いチョウ。成虫で冬越しする。



### ゴマダラカミキリ (カミキリムシ科)

● 6~8月 ● 23~35

● ヤナギ類、ミカン類

黒に白い点があり派手だが、なかなか見つからない。



### コフキゾウムシ (ゾウムシ科)

● 4~7月 ● 4~6

● クズなどの葉

りんぺん  
緑色の鱗片でおおわれている。



### モンキチョウ (シロチョウ科)

● 3~11月 ● 25~30

● シロツメクサなど

メスは白いがまれに黄色いものがある。



### ヤマトシジミ (シジミチョウ科)

● 4~12月 ● 12~15

● カタバミ

まちなか  
街中でもよく見かける青色の小さなチョウ。



### クオウリハムシ (ハムシ科)

● 4~10月 ● 6~7

● ウリ類の葉

黒いはねに黄色のえりがおしゃれな甲虫。

こうちゆう なかま ごんちゆう  
甲虫の仲間には昆虫の中でも一番種類が多い。センター周辺にもハイロゲンゴロウ、コクワガタ、アオドウガネ、オオヒラタシテムシ、アカアシオアオカミキリ、など多数。



### ツバメシジミ (シジミチョウ科)

● 3~10月 ● 11~14

● シロツメクサなど

ヤマトシジミによく似ているが、後ろのはねに突起がある。



### ルリシジミ (シジミチョウ科)

● 3~10月 ● 14~17

● クスの花など

ヤマトシジミより少し大きく光沢のある青色をしている。



**ウラナミシジミ** (シジミチョウ科)

- 9～11月 ● 16～18
- ツルマメなど

発生を繰り返しながら北上してくる。



**ベニシジミ** (シジミチョウ科)

- 3～11月 ● 15～18
- スイバ、ギシギシなど

夏のは黒っぽくなる。



**キタテハ** (タテハチョウ科)

- 4～11月 ● 25～30
- カナムグラ

この<sup>あた</sup>辺りで一番よく見られるタテハチョウ。



**ヒオドシチョウ** (タテハチョウ科)

- 3～11月 ● 32～36
- エノキなど

<sup>ようちゆう</sup>幼虫の時期<sup>しやうだん</sup>工ノキの葉を<sup>しゅうだん</sup>集団で食べる。



**ウラギンシジミ** (シジミチョウ科)

- 6～10月 ● 20～22
- クズの花など

オスは赤っぽくメスは白っぽいはねをしている。



**ムラサキツバメ** (シジミチョウ科)

- 8～11月 ● 18～22
- マテバシイなど

南方系<sup>けい</sup>のチョウだが<sup>ぶんぶ</sup>分布を広げてきている。



**ルリタテハ** (タテハチョウ科)

- 6～10月 ● 30～40
- サルトリイバラ

<sup>じゆえき</sup>樹液に集まる。



**コムラサキ** (タテハチョウ科)

- 6、7～8月 ● 30～40
- ヤナギ類

オスのはねは<sup>かげん</sup>光の加減で青く光りきれい。



**アサマイチモンジ** (タテハチョウ科)

- 5～9月 ● 25～33
- スイカズラ

よく似た<sup>に</sup>チョウでイチモンジチョウもいる。



**コムシジ** (タテハチョウ科)

- 4～9月 ● 20～28
- クズの葉など

葉に止まると白い線が3本あるように見える。



**ゴマダラチョウ** (タテハチョウ科)

- 5～6月(春型)7～8月(夏型)
- 35～42 ● エノキ

<sup>じゆえき</sup>樹液に<sup>よ</sup>良く集まる。白と黒のチョウ。



**アカボシゴマダラ** (タテハチョウ科)

- 5～6月(春型)7～8月(夏型)
- 50～55 ● エノキ

中国大陸から持ち込まれ<sup>ぶんぶ</sup>分布を広げている。



**ヒメウラナミジャノメ**  
(タテハチョウ科)

- 4~9月 ● 16~20
- イネ科カヤツリグサ科など

ジャノメとは蛇の目のこと。



**イチモンジセセリ**  
(セセリチョウ科)

- 5~11月 ● 15~17 ● ススキなど

はねの裏の白い点がまっすぐ  
に並んでいる。



**オカモトゲエダシャク** (シャクガ科)

- 3~4月 ● 約28
- サクラ、クヌギなど

とまるときははねをたたんで  
枝のようになる。



**セダカシャチホコ**  
(シャチホコガ科)

- 6~7月 ● 約40 ● クヌギなど

羽化したたと昼間も見られる。



**ギンイチモンジセセリ** (セセリチョウ科)

- 4~5月(春型)7~8月(夏型)
- 14~16 ● ススキ、チガヤなど

春型ははねの裏の白い線がは  
っきりしている。



**キマダラセセリ** (セセリチョウ科)

- 6~9月に2回発生 ● 12~15
- ススキなど

黄色いまだら模様に見えるセ  
セリチョウ。



**ツマキシヤチホコ** (シャチホコガ科)

- 6~8月 ● 24~32
- コナラ、クヌギなど

とまっていると小枝のように見  
える。



**モンクロシャチホコ** (シャチホコガ科)

- 7~8月 ● 20~28
- サクラなど

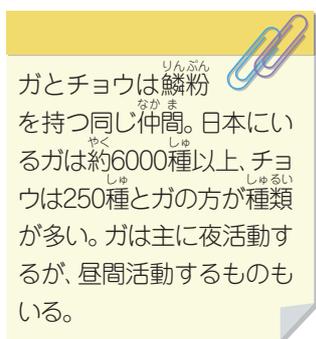
幼虫は集団で葉を食べる。サ  
クラ毛虫と呼ばれる。



**シロオビノメイガ** (メイガ科)

- 6~11月 ● 約12
- イノコヅチなど

昼間も飛ぶが葉の裏にかくれ  
ている。



ガとチョウは鱗粉  
を持つ同じ仲間。日本にい  
るガは約6000種以上、チョ  
ウは250種とガの方が種類  
が多い。ガは主に夜活動す  
るが、昼間活動するものも  
いる。



**コシロシタバ** (ヤガ科)

- 8~9月 ● 25~28
- クヌギなど

木の幹にとまっていると見つ  
けにくい。



**キハラゴマダラヒトリ**  
(ヒトリガ科)

- 4~9月 ● 16~18 ● クワなど

幼虫は毛むくじゃらだが毒は  
持たない。



### カノコガ (ヒトリガ科)

- 6. 8~9月 ● 16~20
- タンポポ

昼間活動する。



### クチバスズメ (スズメガ科)

- 6~8月 ● 約60
- コナラ、クヌギなど

スズメガの仲間なごまは大きいものが多い。



### クマバチ (ミツバチ科)

- 4~10月 ● 約22
- 花粉と蜜

オスは5月ごろホバリングしてメスを待つ。

ハチは他にセイヨウミツバチ、バラハキリバチなどもある。アリもハチの仲間なごま。はたらきバチはメスで産卵管さんらんかんが変化して針へんかになっている。



### ギンツバメ (ツバメガ科)

- 6~7月、9~10月 ● 15~17
- ガガイモなど

葉っぱの上にとまっていると、なかなか気づかない。

昆虫こんちゆうは4億年前おくに地球ちゆうきうに現れ、地球上の生き物の75パーセントを占めるあらかと言われている。まだまだ新種しんしゆが発見あひらされている。



### コガネグモ (コガネグモ科)

- 6~8月
- ♀20~30 ♂5~7

丸くて黄色と黒のシマシマの腹はらをしている。



### ナガコガネグモ (コガネグモ科)

- 8~10月
- ♀20~25 ♂6~12

コガネグモより腹が長い。草の間に丸い巣すをはる。



### オオスズメバチ (スズメバチ科)

- 4~10月 ● ♀女王37~44
- 働きバチ27~37 ♂27~39
- いろんな昆虫

黄色と黒のし模様もようは危ないぞ!という警戒色けいかいしき。



### セグロアシナガバチ

- (スズメバチ科)
- 4~10月 ● 20~25

新女王バチしゆうたんは集団ふゆごで冬越しする。



### ジョロウグモ (ジョロウグモ科)

- 9~12月
- ♀20~30 ♂6~10

木の間に馬蹄型ばていけいの巣すをはる。オスがすぐそばにいる。

クモこんちゆうは昆虫しゆうへんではないがセンター周辺すにも多い。木や草の間に巣すをはるものは他にオニグモなど。地面の中に巣すをはるものもある。またハエトリグモのように巣すをはらないものもある。

## ガヤチョウの幼虫

(イモムシ・ケムシ)が一年を通じて見られる。幼虫を飼育してどんな昆虫になるのか調べるのも楽しい。幼虫で冬越しをするものもいるので冬も探してみよう。



## ゴマダラチョウ幼虫

(タテハチョウ科)

- エノキ

冬越しの幼虫は茶色い。



## オカモトトゲエダシャク幼虫

(シャクガ科)

- サクラ、クヌギなどいろいろ

鳥のフンのよう。



## キエダシャク幼虫 (シャクガ科)

- ノイバラ

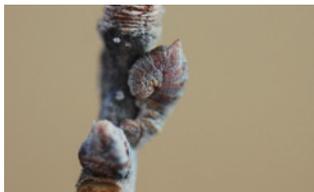
ノイバラのとげとげをまねしている。



## イラガ幼虫 (イラガ科)

- ウメ、クヌギなどいろいろ

さわると痛い!



## カギシロスジアオシャク幼虫

(シャクガ科)

- クヌギ、コナラ

冬芽に擬態している。



## キアゲハ幼虫 (アゲハチョウ科)

- セリ、パセリ

シマシマがおしゃれ。



## チャミノガ幼虫 (ミノガ科)

- サクラ、クヌギなどいろいろ

いわゆるミノムシ。



## トビモンオオエダシャク幼虫

(シャクガ科)

- サクラ、クヌギなど

顔がネコににている。



## クワコ幼虫 (カイコガ科)

- クワ

カイコの仲間。



## スゲドクガ幼虫 (ドクガ科)

- スゲ、ヒメガマ、ヨシ

レモンイエローのケムシ。



## ツマキシヤチホコ幼虫

(シヤチホコガ科)

- クヌギなど

集団で木の葉を食べる。

# 植物

## ア

アカツメクサ(ムラサキツクメクサ)	6
アカバナユウゲショウ(ユウゲショウ)	11
アキノノゲシ	16
アゼナルコ	27
アメリカイヌホウズキ	35
アメリカセンダングサ	15
アメリカフウロ	21
アレチギシギシ	25
アレチヌスビトハギ	7
イタドリ	24
イヌタデ	25
イヌヌマトラノオ	19
イヌムギ	31
ウマスゲ	29
ウマノスズクサ	20
エノコログサ	32
オオアレチノギク	14
オオイヌノフグリ	11
オオジシバリ	17
オオフサモ	10
オオマツヨイグサ	18
オギ	31
オッタチカタバミ	21
オニノゲシ	17
オランダミミナグサ	6

## カ

ガガイモ	35
カキドオシ	34
カサスゲ	28
カタバミ	21
カナムグラ	13
ガマ	26
カラスウリ	10
カラスノエンドウ	8

カラスムギ	30
カントウヨメナ	15
キキョウソウ	25
キクイモ	16
ギシギシ	24
キショウブ	26
キツネノマゴ	35
キンミズヒキ	5
クサネム	7
クサフジ	8
クズ	7
コウソリナ	17
コセンダングサ	15
コバンソウ	30
コムツブツメクサ	9

## サ

サクラソウ	19
サクラタデ	23
ショウブ	27
シヨカツサイ	4
シロツメクサ	6
シロネ	33
スイセン	22
スイバ	24
スイレン	27
スギナ	26
ススキ	32
スズメノエンドウ	8
セイタカアワダチソウ	13
セイバンモロコシ	30
セイヨウアブラナ	4
セイヨウタンポポ	16
セリ	20

## タ

タキバアレチハナガサ	22
タコノアシ	20
タチイヌノフグリ	11
タネツケバナ	4

チガヤ	32
チョウジソウ	21
ツボスミレ	9
ツユクサ	5
ツルマメ	9
ドクダミ	18
トダスゲ	29

## ナ

ナズナ	4
ニガクサ	33
ニワゼキショウ	27
ヌカキビ	31
ネジバナ(モジズリ)	19
ノヂシャ	12
ノビル	23
ノブドウ	13

## ハ

ハコベ(ミドリハコベ)	6
ハッカ	33
ハナニラ	23
ハルジオン	14
ハルシャギク	14
ハルノノゲシ	16
ハンゲショウ	18
ヒガンバナ	22
ヒシ	10
ヒナタイノコズチ	17
ヒメオドリコンソウ	34
ヒメガマ	26
ヒメジソ	33
ヒメジョオン	14
ヒメスイバ	24
ヒルガオ	10
ヒルガキツキミノウ	11
ピロードモウズイカ	11
フトイ	29
ヘクソカズラ	12
ヘビイチゴ	5

ヘラオオハコ	12
ホソイ	30
ホトケノザ	35

## マ

マコモ	32
マツカサススキ	28
マメグンバイナズナ	5
ミコンガヤ	28
ミズヒキ	25
ミソコウジュ	34
ミンハギ	19
ミドリハコベ(ハコベ)	6
ムラサキツメクサ(アカツメクサ)	6
メドハギ	7
メハジキ	34
メマツヨイグサ	18
モジズリ(ネジバナ)	19

## ヤ

ヤエムグラ	12
ヤガミスゲ	28
ヤナギハナガサ	22
ヤブガラシ	13
ヤブカンソウ	23
ヤブジラミ	20
ヤブツルアズキ	9
ヤブマメ	8
ヤワラスゲ	29
ユウゲショウ(アカバナユウゲショウ)	11
ヨシ	31
ヨモギ	15

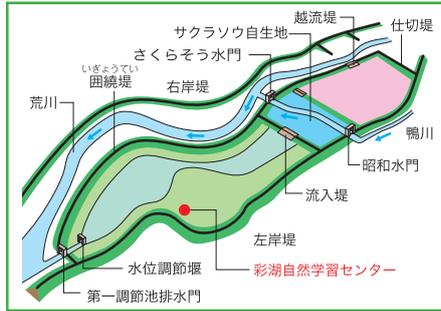
ア		
アオサギ	39	
アオン	54	
アカハラ	50	
アトリ	56	
アリスイ	47	
イソシギ	45	
ウグイス	51	
エナガ	53	
オオジュリン	54	
オオタカ	43	
オオバン	45	
オオヨシキリ	51	
オカヨシガモ	40	
オナガ	57	
オナガガモ	41	
カ		
カイツブリ	38	
カシラダカ	53	
カルガモ	41	
カワウ	38	
カワセミ	47	
カワラヒワ	54	
カンムリカイツブリ	38	
キジ	44	
キジバト	46	
キンクロハジロ	42	
ゴイサギ	39	
コガモ	42	
コゲラ	47	
コサギ	39	
サ		
シジュウカラ	52	
シメ	55	
ジョウビタキ	50	
シロハラ	50	
スズメ	56	
セグロカモメ	46	
セッカ	52	
タ		
ダイサギ	39	
タヒバリ	49	
チョウゲンボウ	44	
ツグミ	51	
ツバメ	48	
トビ	43	
ナ		
ノスリ	43	
ハ		
ハクセキレイ	48	
ハシビロガモ	41	
ハシブトガラス	57	
ハシボンガラス	57	
ハジロカイツブリ	38	
ハヤブサ	44	
バン	45	
ヒドリガモ	40	
ヒバリ	48	
ヒヨドリ	49	
ベニマシコ	55	
ホオジロ	53	
ホシハジロ	42	
マ		
マガモ	40	
マヒワ	55	
ムクドリ	56	
メジロ	52	
モズ	49	
ヤ		
ユリカモメ	46	
ヨシガモ	40	

ア		
アオモンイトトンボ	60	
アカボシゴマダラ	67	
アキアカネ	60	
アサマイチモンジ	66	
アブラゼミ	62	
イチモンジセセリ	68	
ウラギンシジミ	66	
ウラナミシジミ	66	
エンマコオロギ	61	
オオカマキリ	62	
オオスズメバチ	70	
オカモトゲエダシャク	69	
カ		
カナブン	63	
カノコガ	70	
カブトムシ	63	
キイロテントウ	63	
キタキチョウ	65	
キタテハ	67	
キハラゴマダラヒトリ	69	
キマダラセセリ	68	
ギンイチモンジセセリ	68	
ギンツバメ	70	
ギンヤンマ	60	
クチバサズメ	70	
クビキリギス	61	
クマバチ	71	
クルマバッタ	61	
クロウリハムシ	64	
コガネグモ	71	
コカマキリ	62	
コシロシタバ	69	
コバネイナゴ	61	
コフキソウムシ	64	
ゴマダラカマキリ	64	
ゴマダラチョウ	67	
コムスジ	66	
コムラサキ	67	
サ		
ジャコウアゲハ	65	
ショウジョウトンボ	60	
シヨウグモ	71	
シロオビノメイガ	68	
シロテンハナムグリ	63	
セグロアシナガバチ	70	
セダカシャチホコ	69	
タ		
チョウトンボ	60	
ツチイナゴ	61	
ツバメシジミ	65	
ツマキシャチホコ	69	
ナ		
ナガコガネグモ	71	
ナナホシテントウ	63	
ナミテントウ	63	
ニイニゼミ	62	
ハ		
ハラピロカマキリ	62	
ヒオドシチョウ	67	
ヒメウラナミジャンメ	68	
ベニシジミ	66	
マ		
マメコガネ	63	
ミンミンゼミ	62	
ムラサキツバメ	66	
モモブトカミキリモドキ	64	
モンキチョウ	65	
モンクロナシャチホコ	69	
ヤ		
ヤマトシジミ	65	
ヨツボンケシキスイ	64	
ラ		
ルリシジミ	65	
ルリタテハ	67	

## 〈荒川第一調整池と彩湖〉

荒川第一調節池は、戸田市の笹目橋からさいたま市の羽倉橋の延長8.1kmの間に建設された広大な調整池です。

その中には秋ヶ瀬公園、桜草公園、荒川彩湖公園、彩湖・道満グリーンパークそして「彩湖」があります。



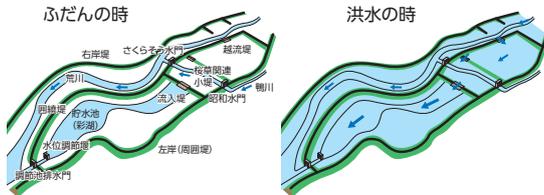
## 〈荒川第一調節池の役割〉

治水機能…荒川第一調整池には、台風などで荒川の水が増水したとき、一時的にこの調節池に水を貯めることで、下流部の洪水を防ぎます。

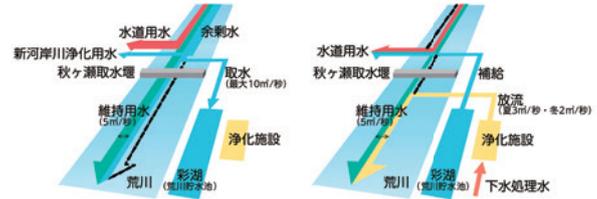
調節池全体にたくわえられる水の量

39,000,000m<sup>3</sup>

25mプールの約130,000倍です。

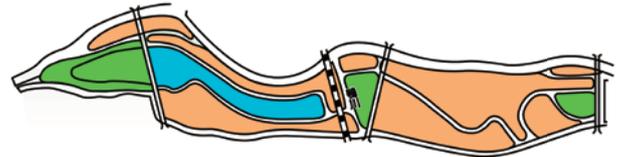


利水機能…荒川の水は、水道水や河川浄化のために大切に使われています。荒川の水量が少なくなった場合、彩湖に貯めた水や下水処理水を高度処理した水でおぎなわれています。



環境整備…水辺の自然環境の保全・再生が図られています。

<p><b>自然保全ゾーン</b> 荒川のいきものが生息する水辺の自然環境の保全・再生が図られています。</p>	<p><b>親水ゾーン</b> 子どもから大人まで、水と親しむ空間が設定されています。</p>	<p><b>野外活動ゾーン</b> レクリエーション施設や公園が整備され、四季を通じて自然を楽しめます。</p>
--	---	--



## 〈戸田ヶ原自然再生事業〉

昔、戸田の荒川沿いには、広大な草むらが広がっていました。そこは、見渡す限りサクラソウが咲く名所として知られていましたが、多くの人が訪れて、花を摘んだり、その後まちが大きくなっていくにつれて、その姿を消しました。



とだみちゃん仲間たち

戸田市では、ふるさとの風景である戸田ヶ原を取り戻そうと、2007年から彩湖周辺で自然再生に取り組んでいます。

## 〈彩湖自然学習センターご利用案内〉

彩湖自然学習センターは、戸田市立郷土博物館の分館として国土交通省と戸田市が共同して設置しました。館内展示、子供から大人まで楽しめる講座、学校教育の支援、生物の保全管理などの活動を行っています。



- ◆開館時間 午前10時から午後4時30分まで
- ◆休館日 毎月の第2・4・5月曜日（祝日を除く）  
毎月末日（土曜日・日曜日・祝日を除く）  
12月28日から翌年の1月4日まで

※ 入館無料

## 〈交通案内〉

### ◆お車でご利用の場合

国道298号幸魂大橋戸田側の案内標識のところを左折

※見学者用駐車場有り

### ◆電車でご利用の場合

JR武蔵浦和駅から  
下笹目行きバス、  
またはJR北戸田駅  
から戸田市コニ  
ュニティバスtoco  
美女木循環「修行  
目」バス下車徒歩  
8分



## 表紙の写真



- |     |            |
|-----|------------|
| 上段左 | セイヨウアブラナ   |
|     | ベニシジミ      |
| 上段中 | マルカメムシ     |
| 上段右 | チョウジソウ     |
| 中段左 | カントウヨメナ    |
| 中段中 | トダスゲ       |
| 中段右 | クワイモ       |
| 下段左 | マイマイガ      |
| 下段中 | カワセミ       |
| 下段右 | ハルシャギク     |
|     | ヒメジョオン     |
|     | ダキバアレチハナガサ |

### ●参考文献

牧野富太郎「原色牧野植物大図鑑」北隆館  
佐竹義輔ほか「日本の野生植物 草本ⅠⅡⅢ」平凡社  
林弥栄ほか「山溪カラー名鑑 日本の野草」山と溪谷社  
清水建美「日本の帰化植物」平凡社  
戸田市教育委員会「増修 戸田市の植物」  
上田恵介「小学館の図鑑NEO 鳥」小学館  
叶内拓哉ほか「日本の野鳥 増補改訂新版」山と溪谷社  
上田秀雄「声が聞こえる！野鳥図鑑 増補改訂版」文一総合出版  
安西英明「新・水辺の鳥」日本野鳥の会  
安西英明 新・山野の鳥」日本野鳥の会  
梓澤設夫「小学館の図鑑NEO 昆虫」小学館  
江崎悌三ほか「原色日本蛾類図鑑 上」保育社  
江崎悌三ほか「原色日本蛾類図鑑 下 改定新版」保育社  
一色周知「原色日本蛾類幼虫図鑑 上下」保育社  
海野和男ほか「日本のチョウ」小学館  
安田守「イモムシハンドブック1 2 3」文一総合出版  
馬場友希・谷川明男「クモハンドブック」文一総合出版  
彩湖自然学習センター所蔵・製作  
●執筆 彩湖自然学習センター（和田隆則、高津亜矢子、山本理香）  
●資料提供 国土交通省関東地方整備局荒川上流河川事務所

### ●写真・イラスト

### ●執筆

### ●資料提供

発行 平成29年11月1日

編集・発行 彩湖自然学習センター

〒335-0031 戸田市大字内谷2887番地

TEL 048-422-9991 FAX 048-422-9993

ホームページ <http://www.city.toda.saitama.jp/site/saiko/>

E-mail [kyo-saiko@city.toda.saitama.jp](mailto:kyo-saiko@city.toda.saitama.jp)